

吉田—口蓋扁桃腺ニ於ケル有莖性腫瘍ノ二例。附、所謂振子様扁桃腺ニ就イテ
 潰瘍、缺損等ヲ認メザルモ、表面凹凸アリテ、網狀ノ索ヲ表ハシ、其間、處々擴張セル腺窩ヲ見ル。

七六二

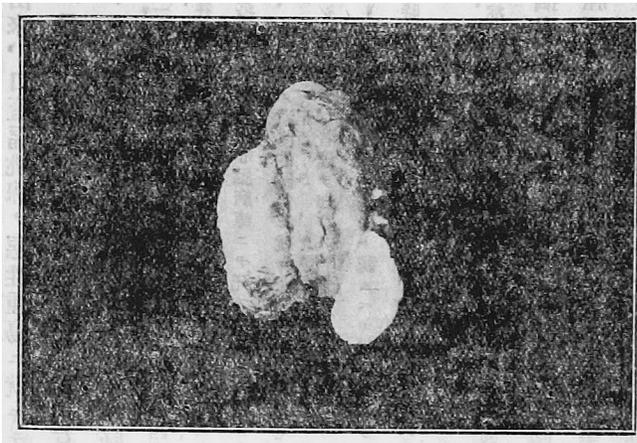


圖 一 第



圖 二 第

●●●●●●●●●●
 組織的検査所見。

扁桃腺竝ニ其腫瘍ヲ互ニ離斷スルコトナク、ソノ儘、「フォルマリン」液ニテ固定シ、「コロイヂン」包埋法ヲ行ヒ、
 連續切片ヲ作製シ、「エオヂン—ヘマトキシリン」、「ヘマトキシリン—ワンギーソン」等ノ重複染色ヲ行ヒ、尙ホ一
 部ニハチール、ニールゼン氏液ヲ用キテ、結核菌染色ヲ試ミタリ。

吉田—口蓋扁桃腺ニ於ケル有莖性腫瘍ノ二例。附、所謂振子樣扁桃腺ニ就イテ

七六四

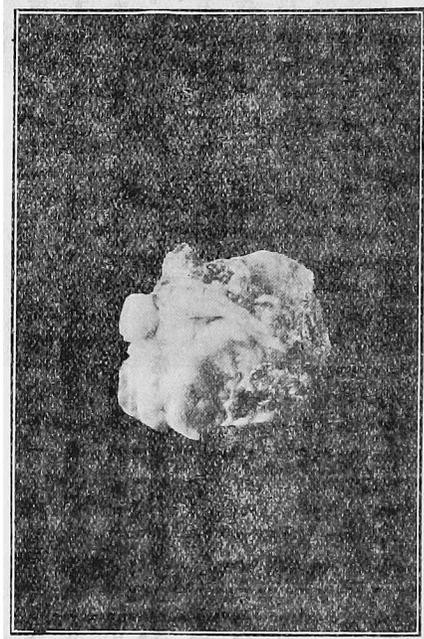


圖 三 第

●●●●●
組織的所見。

標本ノ固定染色ハ前例ニ於ケルト、全ク同様ノ處置ヲ採レリ。腫瘍ノ表面ハ重層扁平上皮ニヨリテ被覆セラレ、上皮ハ平均〇・三耗ノ厚サヲ有シ、前例ニ見ルガ如ク、深ク内部ニ侵入セル部分ヲ認メズ。又腺窩ト認ムベキモノヲ發見スルコト能ハズ。上皮ニ於ケル淋巴球浸淫ノ度ハ可ナリ強ク、腺樣組織ニ於テ、殊ニソノ甚シキモノアリ。腫瘍ノ中央部ハ豊富ナル結締織ニヨリテ、充塞セラレ、周圍ヨリ殆ド劃然限界セラレ。周邊ノ部分ハ、腺樣組織ヨリ成リ、大サ、六〇〇乃至八〇〇「ミクレン」ヲ有シ、種子中心著シク増大セル濾胞ノ此處彼處ニ散在セルヲ見ル。莖部竝ニ莖部ト扁桃腺トノ移行部ニ於テモ、殆ド全ク、腺樣組織ノミヨリ成リ、只コレ等ノ部分ノ中央ヲ微ニ發育セル結締織ノ走行スルアリテ、恰モ腫瘍ト扁桃腺トヲ連結スルヤノ觀ヲ呈ス。扁桃腺自身ノ所見ハ前例ト大同小異ナレバ、之ヲ省略セリ。

是ニ據ツテ考フルニ、第一症例ニ於テ、口蓋扁桃腺ヨリ振子様ニ發生セル有莖性腫瘍ハ、ソノ組織的所見ヨリシテ、正ニ乳嘴腫ト認ムベキモノナルベク、第二症例ハ腫瘍ノ腺様組織ヲ以テ圍繞セラレ、而モ該組織ノ一般ニ肥大セル點ヨリ見テ、扁桃腺ノ限局性「ポリープ」様肥大ト稱スルヲ得可ケン。

之ヲ從來ノ文獻ニ徴スルモ、扁桃腺乳嘴腫ノ記載ハ比較的稀ニシテ、予ノ調査セル範圍内ニ於テハ、只モルガン (Ref. intern. centr. f. L. 1890) カーン (A. f. L. Bd. I. 1894) オノチー (Centr. f. L. Bd. XI. 1895) アルダンス (Ref. internat. centralbl. f. L. Bd. XIII. 1897) シサンチー (Ref. intern. centr. f. L. 1899 Jahrg. XV.) シヤルマン (Bericht Ref. intern. centr. f. L. Jahrg. XIX. 1903) 氏等ノ報告ヲ見ルノミ。敢テ余ノ一例ヲ記シテ、以テ其統計上ノ追加ニ資セントスル所以ナリ。

而シテ此等二症例共ニ、其扁桃腺ニ發生セル腫瘍ハ何レモ大小ノ莖ヲ以テ、固有ノ扁桃腺ニ連ナリ、特ニ第一症例ニ於テハ其狀、恰モ振子様ヲ呈セリ。如斯ヲ又振子様扁桃腺ト稱シ得ルカ、否カ。

元來振子様扁桃腺ナルモノ、見解ハ、人ニヨリテ、異ナルモノ、如ク、我國ニ於テハ此論題ノ下ニ廣瀨 (大日本耳鼻咽喉會々報第十五卷第一號明治四十二年三月發行) 中原 (同會々報第二十二卷第二、三號大正五年九月發行) 兩氏ノ各一例ノ報告アリ。中原氏ハ振子様扁桃腺トハ、扁桃腺ヨリ大小ノ莖ヲ以テ、發生セル「ポリープ」型肥大ノ意義ニシテ、畢竟スルニ扁桃腺組織ノ限局性増殖ニ過ギズト爲シ、氏ノ例モ亦固有扁桃腺ノ限局性肥大ニ外ナラズ。廣瀨氏ノ例モ亦略同様ノ限局性増殖ニ結核ヲ合併セルモノナリ。而シテ此等ノ見解ヨリ推論スレバ、余ノ前記二症例ノ如キモ、之ヲ振子様扁桃腺ト稱スベキモノナラン。サレドコレ果シテ正當ナル見解ナリヤ、否ヤ、是レ余ノ大ニ疑問トセル所ナリ。

抑モ、振子様扁桃腺ナル名稱ニ就イテハ、始メテユーラスツ氏 (Monatschrift. f. O. Jahrg. XIX. 1885) ガ Tonsilla

吉田—口蓋扁桃腺ニ於ケル有莖性腫瘍ノ二例。附、所謂振子樣扁桃腺ニ就イテ

Pendula トシテ記載セルニ基ヅクモノニシテ、今此症例ヲ吟味スルニ、

七六六

十八歳ノ園丁、Hハ輕度ノ消化障礙ト、幼少ノ頃ヨリノ鼻聲トヲ訴ヘテ來リシモノニシテ、左側口蓋扁桃腺ハ稍良ク發育セルモ、右側ノモノハ只僅ニ痕跡狀ニ存在セルノミ。而シテ數回ノ検査ノ後一箇ノ大ナル腫瘍ガ咽頭ノ深部ヨリ上昇シテ忽チ全口峽ヲ充タヌヲ見ル。ソノ色灰白軟ニシテ、葉狀ニ分岐シ、小鶏卵大ナリ。絞斷ノ後、初メテ右側後口蓋弓ノ前壁ノ最下部ニ於テ、發生セルコトヲ示セリ。肉眼的ニハソノ表面ヤ、凹凸不平ニシテ、大小ノ葉狀ニ分タル、モ、粘膜ノ移行ハ到ル處平滑ナリ。腫瘍ノ或ル部分ニ於テ細クシテ短キ莖ヲ有ス。組織的ニハ表面重層磚狀上皮ニヨリ被ハレ、上皮下ニハ無數ノ定型の限局性ノ濾胞ヲ有スル腺樣組織ヲ證明セリ。要之、單ニ肥大セル扁桃腺ニ過ギザリシコトヲ認メタリト云フニ在リ。

即チ是ニ據ツテ見レバ、ユーラスツ氏ノ症例ニ於テハ、扁桃腺自己ガ一ツノ莖ニヨリテ、咽頭下腔ニ懸垂セルモノニシテ、扁桃腺ノ限局性肥大トハ其意義ヲ異ニスルヲ見ル。サレバフキンデル氏 (Arc. f. L. 1898. Nr. 8) モ亦振子樣扁桃腺トハ扁桃腺自己ガ有莖性トナレルカ、或ハユーラスツ氏ノ例ニ於ケルガ如ク、痕跡狀ノ扁桃腺ニ接シテ扁桃腺ト構造ヲ同ジウスル有莖性腫瘍ヲ存スル際ニノミ、カ、ル名稱ヲ附スベキモノナラント説ケリ。而シテ余モ亦如斯場合ニ、之ヲ振子樣扁桃腺ト呼ブノ頗ル合理的ナルヲ覺ユ、蓋シ余ノ見ル所ヲ以テスレバ、限局性扁桃腺肥大ハ、之ヲ振子樣扁桃腺ト區別シテ論ズルノ至當ニシテ、而モ、兩者其意義ヲ異ニスルモノナリト思惟ス。

擱筆スルニ當リ、田中教授ノ懇篤ナル指導ト批判トヲ賜ヒシコトニ向ツテ、深厚ナル謝意ヲ表シ、尙ホ解剖學教室ニ於ケル、同僚關正次君ニ對シテ、檢索上種々ノ便宜ヲ與ヘラレタル厚意ヲ感謝ス。

附圖說明。

第一圖、 摘出セル扁桃腺ノ肉眼的所見。

第二圖、 腫瘍ノ顯微鏡的所見。

第三圖、 摘出セル扁桃腺ノ肉眼的所見。